

科目名	ディベート技術学修 Study of debate skill	科目コード	A0380
-----	------------------------------------	-------	-------

学科名・学年	専攻科・1年（システムデザイン教育プログラム・エキスパートコース1年）
担当教員	外山 茂浩（電子制御工学科）
区分・単位数	履修単位科目・選択・2単位
開講時期・時間数	後期，30時間【内訳：講義20，演習10，実験0，その他0】
教科書	
補助教材	適宜プリントを配布
参考書	本校図書館エンジニアリングデザインコーナーに所蔵されている書籍

【A. 科目の概要と関連性】

アカデミックディベートは、ロジカル・シンキングとレトリックを中心としたディベートの要素を含むことから、まずはeラーニング教材を活用してロジカル・シンキングの基礎を学ぶ。次に、ディベートの概論を学ぶとともに、フローシート、質疑応答、反論反駁方法といったディベート技法を学ぶ。最後に、技術倫理に関するテーマについてディベートを行い、社会における技術者の責任、倫理に関する問題意識を持つこと、自分の意見を持つことを狙いとする。

○関連する科目：プログラム研究基礎セミナー（前年度履修）、プログラム研究特別セミナーⅡ（次年度履修）

【B. 「科目の到達目標」と「学習・教育到達目標」との対応】

この科目は長岡高専の教育目標の(E)と主体的に関わる。

この科目の到達目標と、各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を以下の表に示す。

科目の到達目標	評価の重み	学習・教育到達目標との関連
①課題を発見し解決策を立案し、具体的な実行策を絞り込むことができる。	40%	(E1),(E2)
②複雑な事象の本質を整理・構造化して結論の推定をするために、論理的に展開できる。	40%	(E1),(E2)
③法令や過去の事例等の様々な要素を参照・融合した行動計画を評価できる。	10%	(A3)
④技術の発展と持続的社会的な在り方から自身を把握し、自らのありたい姿を考えることができる。	10%	(A2),(G1)

【C. 履修上の注意】

論理学、ロジカル・シンキング、レトリック、弁論術といった関連書籍が本校図書館エンジニアリングデザインコーナーに所蔵されているので参考にすること。

【D. 評価方法】

次に示す項目・割合で達成目標に対する理解の程度を評価する。60 点以上を合格とする。

- 定期試験 (0%)
- その他の試験 (20%) 【内訳：ディベートに関する小テスト 20】
- レポート (20%) 【内訳：技術倫理・キャリアデザイン 20】
- その他 (60%) 【内訳：ディベート演習 60 (準備 10, 議論 30, 審判 20)】

【E. 授業計画・内容】

● 後期

回	内容	備考
1	ガイダンス、ディベート概論（前半）	iTunes U 国際日本語ディベート講座 (九州大学)
2	ディベート概論（後半）	
3	論題の分析方法	
4	肯定否定論の構築方法	
5	フローシート、質疑応答、反論反駁方法	
6	フローシート、質疑応答、反論反駁方法	
7	技術倫理に関するディベート演習	
8	技術倫理に関するディベート演習	
9	技術倫理に関するディベート演習	
10	技術倫理に関するディベート演習	
11	技術倫理に関するディベート演習	
12	技術倫理に関するディベート演習	
13	技術倫理に関するディベート演習	
14	技術倫理に関するディベート演習	
15	まとめ	